

タイトルは、校歌の2番の一節「♪たまがわの風にのせて伝えよう♪」から引用しました。

# たまがわの風

No.20

平成26年5月1日 校長室発

## 平成26年度学校経営計画について

本年度の重点目標は、職業3学科6分野と「清掃」「販売」の2分野をテーマパーク化し、地域の方々や外部機関とも連携しながら、地域におけるコミュニティを構築することです。

生徒による野菜・食品や木工品の販売、清掃・喫茶サービスの提供、地域の方と共に学ぶパン作り教室等の定期的な開催を目標としています。

具体的には今後ホームページ等で発信していきますので、ご期待ください。

### Osaka Tamagawa Land



# 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

## 【1】めざす学校像

☆知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立をめざすチャレンジを支援する学校

☆個別の適性を正確に把握し、より適切で有効な支援を創造し進化する学校

### たまがわ高等支援学校マネジメント3つの柱

#### ○社会的責任(存在価値)

・学校は個人や社会に必要とされ存在し、個人や社会のニーズに応えるために存在する。知的障がいのある生徒の就労をめざすチャレンジを支援しその取り組みを広く社会に発信し、理解啓発に努める。

#### ○マーケティング(顧客志向)

・2つの顧客(生徒と企業)のニーズを的確に把握し、適切で効果的なマッチングをおこなう。

#### ○イノベーション(継続的な改善・改革)

・時代とともに早いサイクルで変化する社会において、多様な生徒の適性と企業が求めているものを常に把握し、素早く柔軟に支援体制を進化させることができるシステム。

## 【2】中期的目標

### 1. たまがわ高等支援学校の存在価値とその使命意識の浸透

#### (1)たまがわ高等支援学校の専門性の確立

支援教育の視点と職業教育のノウハウを融合させたキャリア教育の確立。(組織・チームとしての専門性)

#### (2)たまがわ高等支援学校の使命

顧客(生徒と企業)のニーズを的確に把握し、適切で効果的なマッチングをおこなう。

#### (3)たまがわ高等支援学校の社会的存在価値

本校の取り組み、実践が全ての障がいのある生徒のチャレンジを支援することにつながる。

### 2. より適切で効果的なマッチングを基本とした指導体制の確立<顧客の創造>

(1)生徒の特性の把握を軸(個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実と活用)として、個別の課題を引き出し、適性を広げ、伸ばすことによりキャリアアップをめざす。

(2)制度の変化や時代の変化を敏感にとらえ、企業のニーズに応える人材を育成し、より適切で効果的なマッチングを行う。

(3)双方(生徒のニーズと企業のニーズ)の満足感を醸成することにより、定着率を上げるとともに、実習先、雇用先の新規開拓の広がりにつなげる。

(4)たまがわ本校と4校の共生推進教室との進路指導の連携体制を構築する。

### 3. 時代とともに変化する生徒と企業のニーズに反応し柔軟に進化する集団

(1)これまでの業務内容全般を見直し、スクラップ&ビルドの精神から非効率な業務の廃止や組織の再編を図り、効率的で機動力のある集団をめざす。

(2)開校以来構築してきた職業に関する専門学科をさらに進化させ、地域との連携を図りつつ、生徒が時代のニーズに応えるスキルを身につけるものとする。

(3)引き続き、卒業生の80%以上が就労できる体制を常にイノベーションを繰り返しながら機能させる。

(4)進化に対応できる若手人材の育成を図るため、積極的に責任職への登用を進める。

### 【3】本年度の取組内容

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標
1 たまたがわ高等支援学校の存在価値と その使命意識の浸透	(1)たまたがわ高等支援学校の専門性の確立とたまたがわ高等支援学校の使命	<p>ア. たまたがわ高等支援学校のテーマパーク化 「ソーシャルスキル」(就労のためのスキル)を習得するために3学科6分野それぞれの「テーマ」を基に各学科・分野が教育内容にマイナーチェンジを加える。</p> <p>イ. 学科の取り組みにおいて地域との連携を進める。</p>	<p>ア. 各学科・分野が広報内容を再検討しHPに記載する。年度末にアンケート等を実施し効果について確認。</p> <p>イ. 学校協議会地域代表にご意見をいただく</p>
	(2)たまたがわ高等支援学校の社会的存在価値	<p>ア. 「とりかい高等支援学校」、本年度開校する「すながわ高等支援学校」と情報を共有しながら連携を強化する。</p> <p>イ. 部活動等の交流を企画する。</p>	<p>ア. 教頭の情報交換会の内容を密にし、学校に持ち帰る。</p> <p>イ. 定期戦・定期交流の計画を立てる。高体連加盟登録した部は、大会で1勝をめざす。</p>
2 より適切で効果的なマッチングを基本とした 指導体制の確立	(1)個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実と活用	<p>ア. 就労していく生徒がより有効に活用できる個別の教育支援計画にバージョンアップさせる。</p>	<p>ア. 様式については昨年度改訂した。今年度も引き続き丁寧に行う。</p>
	(2)より適切で効果的なマッチングを行う。	<p>ア. 生徒に習得させるスキルと企業が求めるスキルのマッチングを精査する。</p>	<p>ア. 企業が求めるスキルを集約し情報を共有発信する。</p>
	(3)雇用先の新規開拓の新たな広がりに取り組む。	<p>ア. あらゆる場面において積極的に広報活動を行う。特に1(1)イ. の取組みに事業者対象見学会等を設定する。</p> <p>イ. 連携機関を積極的に増やす活動を行う。</p>	<p>ア. 年間10回以上の情報発信の場を設ける。</p>
	(4)たまたがわ本校と4校の共生推進教室の移行期をスムーズに進行する。	<p>ア. 今後順次移行していく共生推進教室の円滑な教育活動を維持する。</p>	<p>イ. 新たに参入する企業との連携を確立させる。</p> <p>ア. 円滑な情報の引き継ぎ。</p>
3 時代とともに変化する生徒と企業のニーズに反応し 柔軟に進化する集団	(1)スクラップ&ビルドの精神から非効率な業務の廃止や組織の再編を図り、効率的で機動力のある集団をめざす。	<p>ア. 昨年度、改編した校務分掌組織を新設した総務部と首席の協働によりさらに機能アップさせる。</p> <p>イ. 統合ICTが本格稼働することから効率的な校務執行体制を構築する。</p>	<p>ア. 総務部と各分掌の協働による事業数。</p> <p>イ. 分掌による業務の再点検し、それぞれ業務を10%削減する。</p>
	(2)職業に関する専門学科が、地域との連携を図りつつ、時代のニーズに応えるスキルを身につけるものとする。	<p>ア. 開校以来構築してきた職業科の授業内容を時代にマッチ、あるいは先取りするよう、教育内容にマイナーチェンジを加える。</p> <p>ア. 実習先企業・雇用を検討いただける企業の新規開拓を全教職員で引き続き取り組む。</p>	<p>ア. 80%以上の維持。</p>
	(3)引き続き、80%以上が就労できる体制を堅持する。	<p>ア. 若手教員の育成と積極的登用により、フレキシブルな教員集団をめざす。</p>	<p>ア. 中堅教員のミドルポストへの登用数を増やす。今年度の「イノベーション委員会」において3人程度登用することを目標とする。</p>
	(4)進化に対応できる若手人材の育成	<p>ア. 若手教員の育成と積極的登用により、フレキシブルな教員集団をめざす。</p>	<p>イ. 防災委員会を立ち上げる際、ベテラン・若手をバランスよく選任する。</p>